

# HiKOKI

## 取扱説明書

### 用途

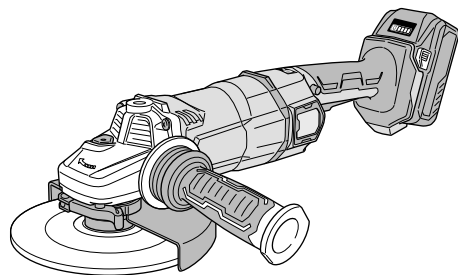
- 鉄、青銅、アルミ鋳物などのバリ取り  
および仕上げ、溶接、溶断部の研削、さび落とし
- 塗装面の下地みがき、さび落とし、塗装落とし
- 軟鋼材（薄物鉄板、小径丸棒など）の切断
- カワラ、タイル、石材、コンクリートなどの切断、  
溝入れおよび研削

## コードレスディスクグラインダ

36 V

180 mm G 3618DA [ブレーキ付]

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、  
ありがとうございました。  
ご使用前にこの取扱説明書を良くお読みになり、  
正しく安全にお使いください。  
お読みになった後は、いつでも見られる所に  
大切に保管してご利用ください。



本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

### はじめに

コードレス工具の安全上のご注意…	1
本製品の使用上のご注意……………	5
USB 機器との接続時のご注意 ……	8
リチウムイオン電池の使用上のご注意…	9
各部の名称……………	11
標準付属品……………	12
仕様……………	13
別売部品……………	15

### 使い方

ご使用前の準備と確認……………	17
各種操作方法について……………	19
トイシの取付け・取りはずし……	23
本製品の特性について……………	24
キックバックについて……………	25
キックバック軽減システムについて…	26
研削する……………	27
別売部品の取付け方……………	31
蓄電池を充電する……………	37
USB 機器を充電する ……	39

### その他

保守・点検……………	41
故障診断……………	45
ご修理のときは……………	裏表紙

## **⚠警告**、**⚠注意**、**注** の意味について

ご使用上の注意事項は「**⚠警告**」、「**⚠注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

**⚠警告** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

**⚠注意** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

**注** : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、「**⚠注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

## コードレス工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてを良くお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

### **⚠警告**

#### ① 専用の充電器や蓄電池を使用してください。

この取扱説明書および弊社カタログに記載されている指定の充電器や蓄電池を使用してください。

指定以外の蓄電池を使用すると、破裂して傷害や損害を及ぼす恐れがあります。

#### ② 正しく充電してください。

- 充電器は、定格表示してある電源で使用してください。直流電源、昇圧器などのトランス類では使用しないでください。異常に発熱し、火災の恐れがあります。
- 充電器の使用温度範囲外では、蓄電池を充電しないでください。正しく充電されないばかりか、蓄電池の寿命が短くなります。また、破裂や火災の恐れがあります。
- 蓄電池は、換気の良い場所で充電してください。充電中、蓄電池や充電器を布などでおおわないでください。破裂や火災の恐れがあります。
- 使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電や火災の恐れがあります。

## ⚠ 警告

- ③ **蓄電池の端子間を短絡（ショート）させないでください。**  
釘袋などに入れると、短絡（ショート）して、発煙・発火・破裂などの恐れがあります。
- ④ **蓄電池の内部に、水のような導電性の液体を入れないでください。**  
発熱、発火、破裂の恐れがあります。
- ⑤ **感電に注意してください。**  
ぬれた手で、充電器の電源プラグに触れないでください。  
感電の恐れがあります。
- ⑥ **作業場や保管場所の周囲状況も考慮してください。**
  - 工具本体・充電器・蓄電池は、雨の中や湿った場所で使用したり、放置・保管をしないでください。感電や発煙の恐れがあります。
  - 作業場は十分に明るくしてください。  
暗い場所での作業は、事故の原因になります。
  - 可燃物、可燃性あるいは腐食性の液体・ガスがある所での使用、充電、保管をしないでください。発火や火災の恐れがあります。
- ⑦ **保護メガネを使用してください。**  
作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。  
切削したものや粉じんが目や鼻に入る恐れがあります。
- ⑧ **加工するものをしっかりと固定してください。**  
加工するものを固定するために、クランプや万力などを利用してください。  
手で保持するより安全で、両手でコードレス工具を使用できます。  
固定が不十分な場合は、加工するものが飛んで、けがの原因になります。
- ⑨ **次の場合は、コードレス工具のスイッチを切り、蓄電池を工具本体から抜いてください。**
  - 使用しない、または、修理・調整・点検する場合。
  - 刃物、ビットなどの付属品や別売部品を取付け、交換する場合。
  - その他、危険が予想される場合。  
コードレス工具が作動して、けがの原因になります。
- ⑩ **不意な始動は避けてください。**  
スイッチに指を掛けて連ばないでください。  
コードレス工具が作動して、けがの原因になります。
- ⑪ **指定の付属品やアタッチメントを使用してください。**  
この取扱説明書および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメントを使用してください。  
事故やけがの原因になります。
- ⑫ **蓄電池を火の中に投入しないでください。**  
破裂したり、有害物質の出る恐れがあります。

## ⚠️注意

- ① **作業場は、いつもきれいに保ってください。**  
ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② **子供を近づけないでください。**
  - 作業員以外、コードレス工具や充電器のコードに触れさせないでください。けがの原因になります。
  - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。けがの原因になります。
  - 安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
- ③ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**
  - 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。事故の原因になります。
  - 工具本体や蓄電池を、温度が50℃以上に上がる可能性のある場所（金属の箱や夏の車内など）に保管しないでください。  
蓄電池劣化の原因になり、発煙、発火の恐れがあります。
- ④ **無理して使用しないでください。**
  - 安全に能率良く作業するために、コードレス工具の能力に合った速さで作業してください。能力以上での使用は、事故の原因になります。
  - モーターがロックするような無理な使い方はしないでください。  
発煙、発火の恐れがあります。
- ⑤ **作業に合ったコードレス工具を使用してください。**
  - 小形のコードレス工具やアタッチメントは、大形のコードレス工具で行う作業には使用しないでください。けがの原因になります。
  - 指定された用途以外に使用しないでください。けがの原因になります。
- ⑥ **きちんとした服装で作業してください。**
  - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、着用しないでください。  
回転部に巻き込まれる恐れがあります。
  - 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めのついた履物の使用をお勧めします。  
すべりやすい手袋や履物は、けがの原因になります。
  - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。  
回転部に巻き込まれる恐れがあります。
- ⑦ **充電器のコードを乱暴に扱わないでください。**
  - コードを持って充電器を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
  - コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。
  - コードが踏まれたり、引っ掛けられたり、無理な力を受けて損傷することがないように、充電する場所に注意してください。感電や短絡（ショート）して発火する恐れがあります。
- ⑧ **無理な姿勢で作業をしないでください。**  
常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。  
転倒して、けがの原因になります。
- ⑨ **コードレス工具は、注意深く手入れをしてください。**
  - 安全に能率良く作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、良く切れる状態を保ってください。損傷した刃物類を使用すると、けがの原因になります。

## ⚠注意

- 付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。けがの原因になります。
  - 充電器を使用する前に、電源プラグやコードを点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。  
感電や短絡（ショート）して発火する恐れがあります。
  - 充電器に延長コードを使用する場合は、事前に点検し、損傷している場合には交換してください。感電や短絡（ショート）して発火する恐れがあります。
  - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリースが付かないようにしてください。けがの原因になります。
- ⑩ **調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。**  
スイッチを入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。付けたままでは、作動時に飛び出して、けがの原因になります。
- ⑪ **屋外使用に合った延長コードを使用してください。**  
屋外で充電する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルの延長コードを使用してください。
- ⑫ **油断しないで十分注意して作業をしてください。**
  - コードレス工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など、十分注意して慎重に作業をしてください。軽率な行動をすると、事故やけがの原因になります。
  - 常識を働かせてください。非常識な行動をすると、事故やけがの原因になります。
  - 疲れている場合は、使用しないでください。事故やけがの原因になります。
- ⑬ **損傷した部品がないか点検してください。**
  - 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
  - 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
  - 電源プラグやコードが損傷した充電器や、落としたり、何らかの損傷を受けた充電器は使用しないでください。感電や短絡（ショート）して発火する恐れがあります。
  - 破損した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
  - スイッチで始動および停止操作のできないコードレス工具は、使用しないでください。誤作動して、けがの原因になります。
- ⑭ **コードレス工具の修理は、専門店で依頼してください。**
  - サービスマン以外の方は、工具本体・充電器・蓄電池を分解したり、修理・改造をしないでください。発火したり、誤作動して、けがの原因になります。
  - コードレス工具が熱くなったり、異常に気付いたときは、点検・修理に出してください。
  - この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
  - 修理は、お買い求めの販売店に依頼してください。ご自分で修理すると、事故やけがの原因になります。

# 本製品の使用上のご注意

先にコードレス工具として共通の注意事項を述べましたが、コードレスディスクグラインダとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

## ⚠警告

- ① ホイルガードは、必ず取付けて使用してください。

トイシやダイヤモンドカッターが破壊したとき、けがの原因になります。

- ② 使用するトイシは、最高使用周速度 72 m/s {4,300 m/min} 以上の正規のトイシを取付け、正しい使用面で研削してください。側面や上面では研削しないでください。

正規以外のトイシを使用したり、また側面や上面で研削すると、トイシが破壊し、けがの原因になります。

- ③ トイシにヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。

異常があると、トイシが破壊し、けがの原因になります。

- ④ 使用中は、振り回されないよう機体を確実に保持してください。特に始動時は気をつけてください。サイドハンドルを付属している場合は、サイドハンドルをしっかりと取付けてください。

確実に保持していないと、けがの原因になります。

- ⑤ 水、研削液などは使用しないでください。

乾式用のため、トイシの破壊によるけがや感電の恐れがあります。

- ⑥ 機体を万力などで保持した使い方はしないでください。

トイシやダイヤモンドカッターが破壊したとき、けがの原因になります。

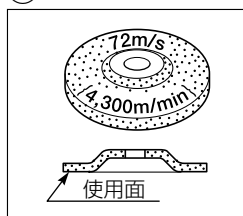
- ⑦ 使用中は、回転部に手や顔などを近づけないでください。

けがの原因になります。

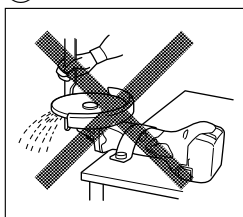
- ⑧ 研削粉は火花となって飛散するので、引火しやすいもの、傷付きやすいものは安全な場所に遠ざけてください。また、研削火花を直接手足などに当てないようにしてください。

火災ややけどの原因になります。

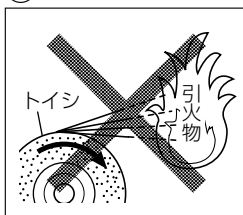
②



⑥



⑧



## 警告

- ⑨ 作業する箇所に、電線管・水道管やガス管などの埋設物がないことを作業前に十分確かめてください。  
埋設物があると先端工具が触れ、感電や漏電・ガス漏れの恐れがあり、事故の原因になります。
- ⑩ トイシを用いて切断作業をする場合は、切断トイシを使用してください。  
切断トイシ以外のトイシは、けがの原因になります。
- ⑪ 切断トイシを使用する場合は、切断トイシ専用下記の部品を取付けてください。

外径 180 mm 用

ホイルガードベースセット【切断用】

切断トイシが破壊したとき、けがの原因になります。

- ⑫ 切断トイシ、ダイヤモンドカッターでの作業を行う際は、ジグザグ切断・曲線切り・斜め切り・コジリ・側面使用をしないでください。  
切断トイシやダイヤモンドカッターが破壊したり、キックバックが発生するなど、けがの原因になります。

- ⑬ 回転させたまま、台や床などに放置しないでください。

けがの原因になります。

- ⑭ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音、異常振動がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。

そのまま使用していると、けがの原因になります。

- ⑮ 誤って落としたり、ぶつけたときは、トイシや機体などに破損や亀裂、変形がないことを良く点検してください。  
破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。

- ⑯ 工具本体、および蓄電池の端子部（蓄電池取付部）に変形が生じた場合は、使用しないでください。

蓄電池を取付けた場合に短絡（ショート）して、発煙・発火の恐れがあります。

- ⑰ 工具本体の端子部（蓄電池取付部）に、切りくずやほこりがたまらないようにしてください。

- 使用前に、端子部に切りくず、ほこりがたまっていないことを確認してください。
- 作業中に、機体に付いた切りくず、ほこりが端子部に降りかからないようにしてください。
- 使用中断時、および使用後に切りくず、ほこりが降りかかる場所に機体を放置しないでください。

短絡（ショート）して、発煙・発火などの恐れがあります。

⑬



## ⚠ 警告

### ⑱ 〔事業者の方へ〕

トイシの取替え・試運転は、法・規則で定める特別教育を受けた人に行わせてください。

関連法令	労働安全衛生法	第59条
	労働安全衛生規則	第36条
	安全衛生特別教育規程	第2条

## ⚠ 注意

- ① 工具類（トイシなど）や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。  
確実でないと、はずれたりし、けがの原因になります。
- ② 使用中は、軍手など巻き込まれる恐れがある手袋を着用しないでください。  
回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。
- ③ 新しいトイシを取付け、はじめてスイッチを入れるときは、トイシの露出部から一時身体を避けてください。  
トイシが破壊したとき、けがの原因になります。
- ④ ブレーキが働くときの反発力に注意してください。  
機体を落としたり、けがの原因になります。
- ⑤ ブレーキが正常に作動しない場合は、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。  
そのまま使用していると、けがの原因になります。
- ⑥ 試運転を励行してください。  
試運転は、トイシ交換後は3分間以上、その日の作業始め前は1分間以上行ってください。  
試運転せずに作業開始すると、思わぬけがの原因になります。
- ⑦ 高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。  
材料や機体などを落としたとき、事故の原因になります。
- ⑧ 指定以外の刃物（丸のこ刃、チップソーなど）での切断作業はしないでください。  
丸のことしての保護装置がなく、けがの原因になります。
- ⑨ 精密部品を内蔵していますので、落下等の強い衝撃を加えたり、水にぬらさないでください。  
誤作動等をおこす原因になります。
- ⑩ 蓄電池は確実に取付けてください。  
確実でないと、蓄電池が抜け落ちて、けがの原因になります。



## ⚠注意

- ⑪ スイッチパネルに強い衝撃を与えたり、破いたりしないでください。
- ⑫ 蓄電池を一般のごみと一緒に捨てたり、火の中へ入れないでください。
- ⑬ 蓄電池は子供の手の届かない所に保管してください。
- ⑭ 蓄電池の仕様表示に従って正しく使用してください。

## USB 機器との接続時のご注意

本製品に標準付属 (NN 仕様を除く) されている充電器には、電動工具用リチウムイオン電池を充電する以外に、一般の USB 機器を充電できる USB 端子を装備しています。

USB 機器を充電する際は、以下の内容を守ってください。

予期できない問題が生じた場合、接続した USB 機器の内部に保存されているデータが破損したり消失する可能性があります。万一の場合に備えて、必ず事前にバックアップをしてください。

なお、USB 機器との接続において、USB 機器の内部に保存されているデータの破損または消失および接続機器の故障については、いかなる場合においても弊社では責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

# リチウムイオン電池の使用上のご注意

本製品にはリチウムイオン電池が標準で付属されております。(NN仕様除く)  
リチウムイオン電池の寿命を長くする目的で出力を停止する保護機能がついています。

本製品を使用中、スイッチを引いたままでも下記①、②、③の場合、モーターが停止する場合がありますがこれは保護機能によるものであり故障ではありません。

- ① 電池残量が少なくなるとモーターが停止します。  
速やかに充電してください。
- ② 工具本体が過負荷状態になるとモーターが停止する場合があります。  
いったんスイッチをはなし、過負荷の原因を取り除いてください。
- ③ 蓄電池が過熱状態になるとモーターが停止する場合があります。  
蓄電池の使用を中断し、工具本体より取りはずして、風通しの良い日かげなどで蓄電池を十分に冷ましてください。

再びご使用になれます。

さらに次項に述べる注意事項を守ってください。

## ⚠ 警告

蓄電池の液漏れ、発熱、発煙、発火を未然に防ぐため以下の内容を必ず守ってください。

- ① 蓄電池に切りくずやほこりがたまらないようにしてください。
  - 作業中に切りくずが蓄電池に降りかからないようにしてください。
  - 作業中に機体に付いた切りくず、ほこりが蓄電池に降りかからないようにしてください。
  - 使用しないときに切りくず、ほこりが降りかかる場所に蓄電池を放置しないでください。
  - 保管時、蓄電池は切りくず、ほこりを落とし、金属製の部品(ねじ、釘など)とは別々にしてください。
- ② 蓄電池に釘をさす、ハンマーでたたく、踏みつける、投げつけるなど強い衝撃を与えないでください。
- ③ 外傷、変形の著しい蓄電池は使用しないでください。
- ④ (+)(-)を逆にして使用しないでください。
- ⑤ 蓄電池を直接、コンセントや車のシガーライターソケットに接続しないでください。
- ⑥ 蓄電池を指定機器以外の用途に使わないでください。
- ⑦ 蓄電池を電子レンジに入れたり、高圧容器に入れるなど過熱、高圧を与えないでください。

## ⚠ 警告

- ⑧ 蓄電池が液漏れしたり、悪臭がするときは直ちに火気より遠ざけてください。
- ⑨ 強い静電気の発生する場所では使用しないでください。
- ⑩ 蓄電池の使用、充電、保管時に異臭を発したり、発熱、変色、変形、その他異常に気がついたときは、直ちに使用を中止して、お買い求めの販売店にご相談ください。

## ⚠ 注意

- ① 蓄電池が液漏れして液が目に入ったときは、こすらずにすぐ水道水などのきれいな水で十分に洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。  
放置すると液により目に障害を与える原因になります。
- ② 蓄電池が液漏れして液が皮膚や衣類に付着した場合は、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。  
皮膚がかぶれたりする原因になる恐れがあります。

## 蓄電池はリサイクルへ.....

蓄電池はリサイクル可能な貴重な資源です。蓄電池や製品の廃棄の際は、リサイクルにご協力いただき、お買い求めの販売店にご持参ください。

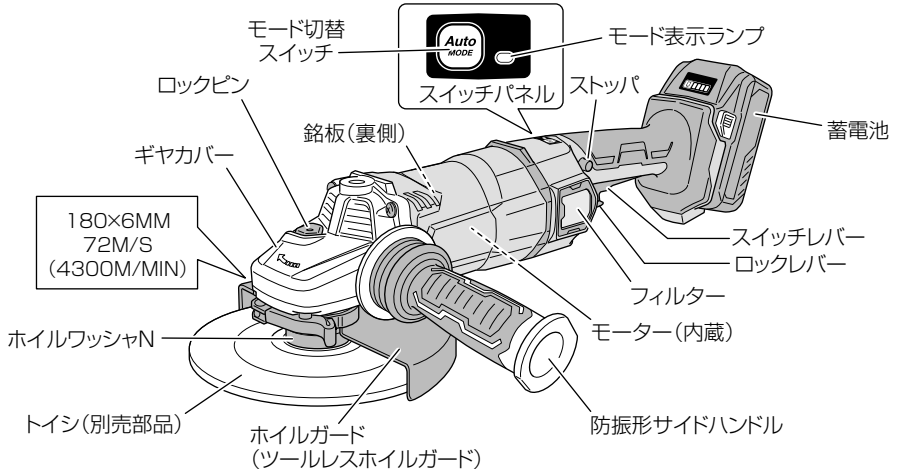


### ○ 新しい蓄電池は、弊社純正品をご使用ください

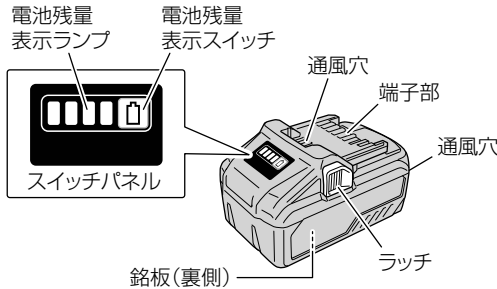
弊社指定の蓄電池以外の使用や分解、改造した物（蓄電池を分解してセルなどの内蔵部品を交換した物を含みます）は、安全性や製品に関する保証はできません。

# 各部の名称

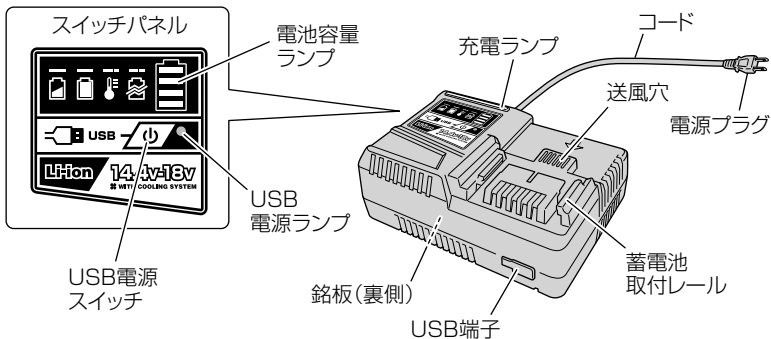
## 工具本体




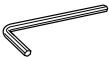
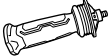
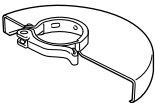



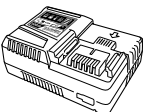
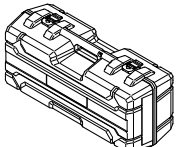

## 蓄電池



## 充電器



# 標準付属品

品名・形名	仕様	2WP	NN
スパナ		1 個	1 個
六角棒スパナ		1 個	1 個
防振形サイドハンドル		1 個	1 個
ツールレスホイールガード (出荷時本体装着)		1 セット	1 セット
ホイールワッシャN (出荷時本体装着)		1 個	1 個
ホイールナット (出荷時本体装着)		1 個	1 個
蓄電池 BSL 36B18		2 個	—
充電器 UC 18YDL		1 台	—
収納ケース		1 個	—
電池カバー		2 個	—

# 仕 様

## 1. 工具体体

形 名	G 3618DA	
モ ー タ ー	直流ブラシレスモーター	
無 負 荷 回 転 数 [気温20℃満充電時]	3,200 min <sup>-1</sup> {回/分}(オートモード時) 5,300 min <sup>-1</sup> {回/分}(全速モード時)	
トイシ寸法	外 径	180 mm
	厚 さ	レジノイドフレキシブルトイシ : 3.1 mm ~ 3.7 mm レジノイドトイシ : 6 mm
	穴 径	22 mm
質 量	4.7 kg (BSL 36B18 装着時)	
使用可能蓄電池 <sup>*1</sup>	マルチボルトタイプ蓄電池	
振動3軸合成値 <sup>*2</sup>	4.0 m/s <sup>2</sup> <sup>*3</sup>	

※1: 既存の蓄電池 (BSL 3660/3626/3620、および BSL 18xx、BSL 14xx シリーズ)、および AC/DC アダプタ (ET 36A) は使用できません。

※2: 振動3軸合成値 (周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値) については、JEMA [一般社団法人日本電機工業会]  
ウェブサイト : <http://www.jema-net.or.jp/Japanese/pis/powertool.html>  
をご参照ください。

※3: 振動3軸合成値は、EN60745-2-3 規格に基づき測定しています。

## 2. 蓄電池

形 名	BSL 36B18	
種 類	円筒密閉形リチウムイオン電池	
電 池 電 圧	36 V / 18 V (自動切替 <sup>*1</sup> )	
容 量	4.0 Ah / 8.0 Ah (自動切替 <sup>*1</sup> )	
冷 却	対応	
使用可能な コードレス製品 <sup>*2</sup>	18 V 品 36 V 品 : マルチボルトタイプ蓄電池対応製品	
使用可能な充電器	スライド式リチウムイオン電池対応充電器	
残量表示ランプ	緑色 LED	

※1: 工具体体により自動で切り替わります。

※2: 詳細は弊社総合カタログなどで確認してください。

### 3. 充電器


形 名		UC 18YDL		
充電可能蓄電池		リチウムイオン電池 14.4 V (BSL14xxシリーズ)、18 V (BSL18xxシリーズ)、 マルチボルトタイプ蓄電池		
入力電源		単相交流 50 / 60 Hz 共用 電圧 100 V		
蓄電池	充電電圧	14.4 V または 18 V		18 V
	タイプ	標準	薄型軽量	マルチボルト
	充電時間*1 [気温20℃時]	BSL 1460 : 約 30 分 BSL 1860 : 約 30 分 BSL 1450 : 約 25 分 BSL 1850 : 約 25 分 BSL 1440 : 約 20 分 BSL 1840 : 約 20 分 BSL 1430 : 約 15 分 BSL 1830 : 約 15 分	BSL 1430C : 約 30 分 BSL 1830C : 約 30 分 BSL 1425 : 約 25 分 BSL 1825 : 約 25 分 BSL 1420 : 約 20 分 BSL 1820 : 約 20 分 BSL 1415 : 約 15 分 BSL 1815 : 約 15 分	BSL 36A18 : 約 25 分 BSL 36B18 : 約 40 分
	充電電流	12.0 A	6.0 A	12.0 A
	USB端子	充電電圧	5 V	
	充電電流	2 A		
コ ー ド		2 心ビニールコード		
質 量		0.8 kg		
使用温度範囲*2		- 10 ~ 40℃		
冷 却		対応 (ファン付き)		
ブ ザ ー 音		あり		

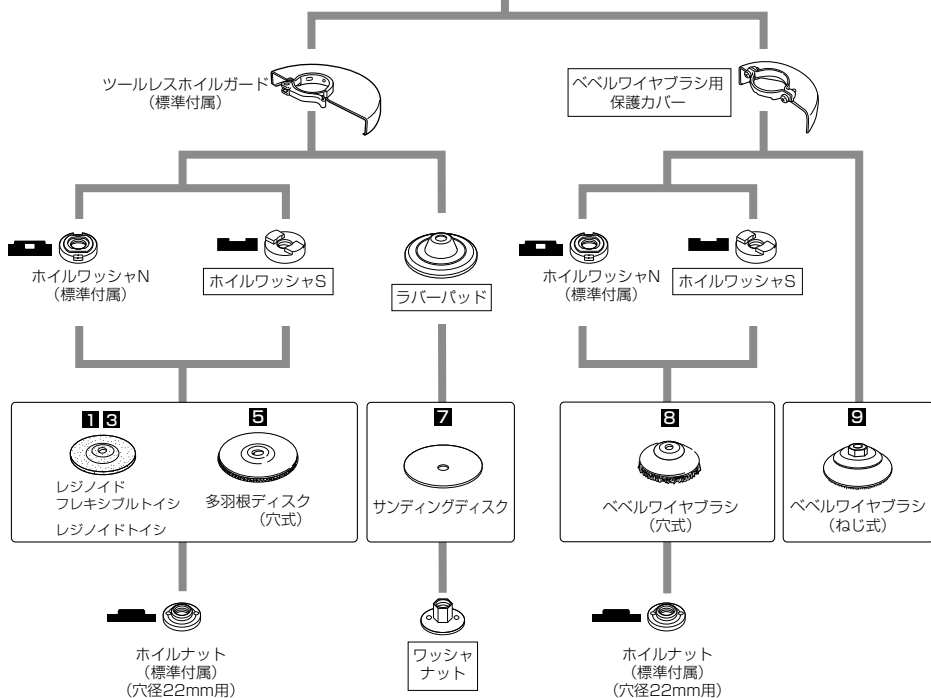
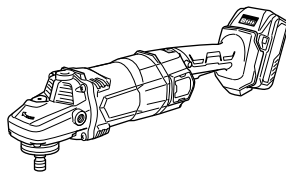
※1:蓄電池の充電時間は、使用環境や蓄電池の状態により長くなるときがあります。

※2:周囲温度が0℃未満のときは、充電時間が長くなります。

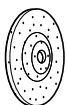
# 別売部品 (別売部品は生産を打ち切ることがありますので、ご了承ください)

作業に適した先端工具をお選びください。  
取付け方法は、P.31 ~ 36 をご参照ください。

ホイールワッシャ、ホイールナットの黒塗りのイラスト  は、側面から見たときの形状イメージです。取付ける向きの参考にしてください。



## 1 レジノイドフレキシブルトイシ



研削時の振動、騒音が低く、研削面への吸い付きが抜群。ステンレス、一般鋼材に材質を選ばず使用でき、効率的な作業ができます。

## 3 レジノイドトイシ



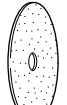
目づまりが少なく、研削能率は最高。特にステンレスの荒研削には抜群の性能を発揮します。

## 5 多羽根ディスク (穴式)



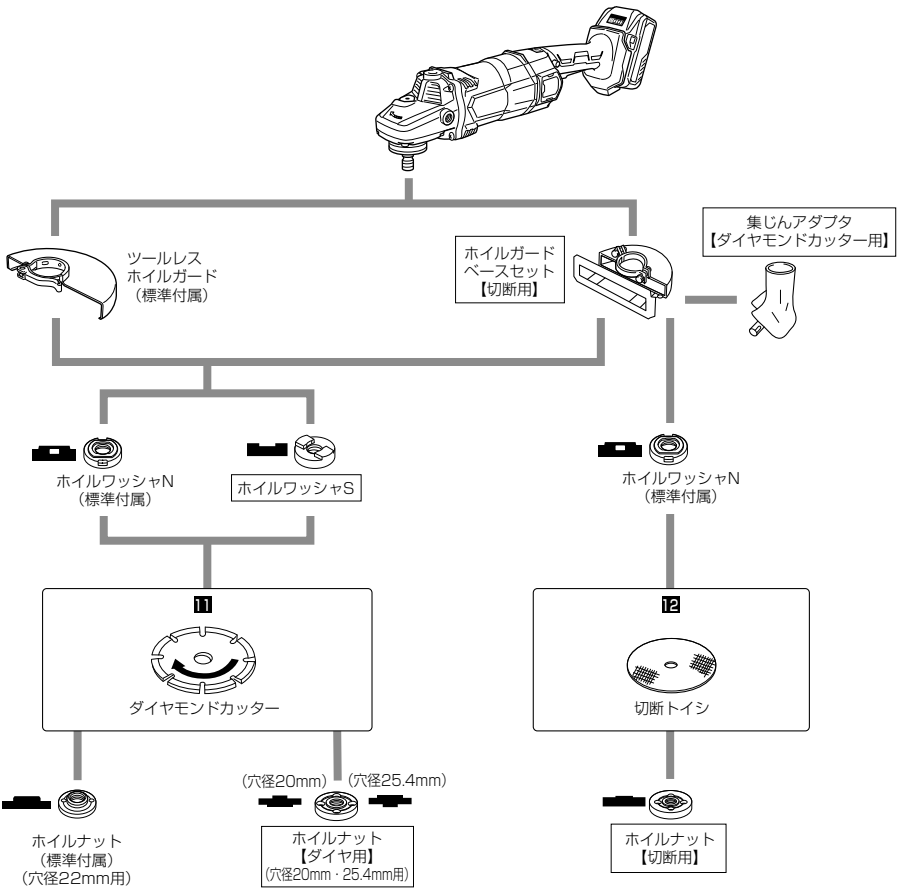
トイシに比べ高効率、長寿命のすぐれたもの。ジルコニア砥粒なのでステンレス、特殊鋼の研削および重研削作業も可能です。

## 7 サンディングディスク

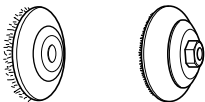


研削量が少なく仕上げ面をきれいにしたいとき、塗装面の下地みがき、さび落とし、塗料落としなどに用います。



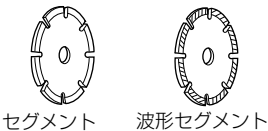


**8** ベベルワイヤブラシ (穴式) **9** ベベルワイヤブラシ (ねじ式)



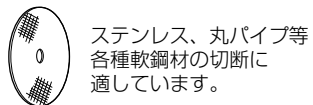
鋳物、構造物、タンク、車体、鉄板、石材およびコンクリートなどの表面仕上げ、またはペンキはがしなどに有効です。特に凸凹が激しい面や、隅の部分または溝の底などを仕上げる場合に外周部を使用し、能率を上げることができます。線材破片の飛散が少ない高性能・長寿命タイプです。

**11** ダイヤモンドカッター



カワラ、タイル、石材、コンクリートなどの溝入れ、および研削用など、多彩にラインナップしております。

**12** 切断トイシ



# ご使用前の準備と確認

## ●作業環境の整備

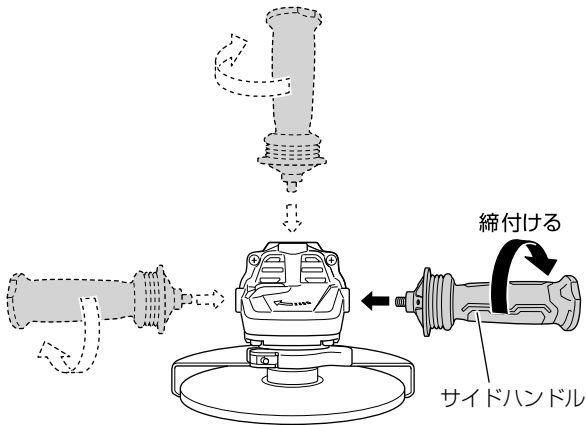
薄い鋼板などを研削する場合には、作業台の状況によっては研削音が鋼板に反響して大きな騒音が出る場合があります。このような場合には、鋼板の下にゴムシートを敷くなどして騒音を出さない配慮をしてください。

### ○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

## ●サイドハンドルの取付け

サイドハンドルは、本体の3か所に取付け可能です。作業に合わせて、確実に取付けてください。



## ● ツールレスホイールガードの取付け

本製品には一度取付ければ、工具を使わずレバーで固定・解除できるツールレスホイールガードを標準付属しています。以下の手順に従い確実に取付けてください。

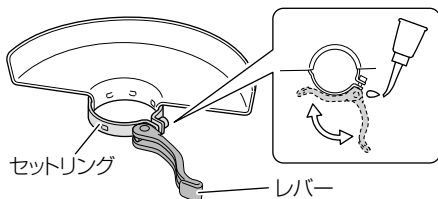
**1** レバーを開いた状態の、ツールレスホイールガードを右図の向きにします。セットリングの凸部とギヤカバーの凹部を合わせ、ギヤカバーの段差部に突き当たるまでさし込みます。

**2** 以下の2つの状態を満足するように、ねじの締付け具合を調整してください。

- ① レバーを開いたとき、ツールレスホイールガードがスムーズに任意の角度に向きを変えられる。
- ② レバーを閉じたとき、ツールレスホイールガードがガタつきなくしっかりと固定される。

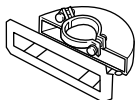
**注** ●レバーが滑らかに動かないときは、レバーとセットリングの接触面に注油してください。

●切断トイシ（別売部品）を使用するときは、必ず別売部品のホイールガードベースセット【切断用】を取付けてください。



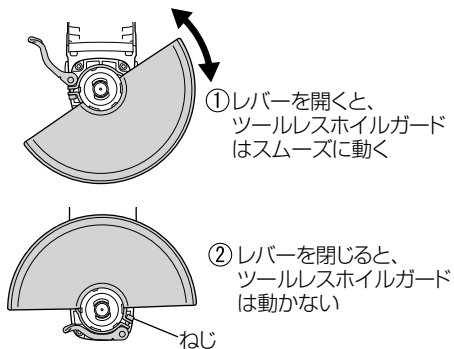
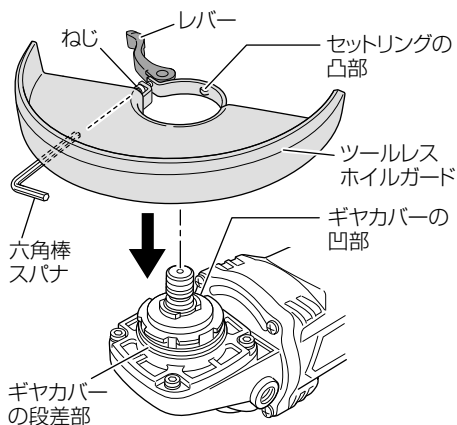
切断トイシ（別売部品）を使用するとき

必ず別売部品のホイールガードベースセット【切断用】を使用してください。



**⚠ 警告**

**ホイールガードは、必ず取付けて使用してください。**  
トイシやダイヤモンドカッターが破壊したとき、けがの原因になります。



※ レバーを閉じてもツールレスホイールガードが動くときは、付属の六角棒スパナでねじを締める

ベベルワイヤブラシ（別売部品）を使用するとき

必ず別売部品のベベルワイヤブラシ用保護カバーを使用してください。

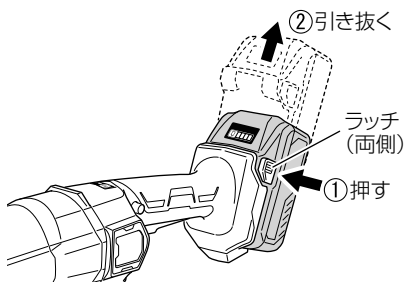


# 各種操作方法について

## ● 蓄電池の取りはずし・取付け

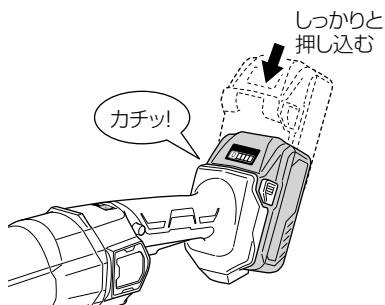
### 取りはずすとき

蓄電池を工具本体から取りはずすときは、両側のラッチを押しながら、スライドさせて引き抜きます。



### 取付けるとき

蓄電池を取付けるときは、「カチッ」と音がするまでしっかりと押し込んでください。



## ●スイッチについて

### ⚠警告

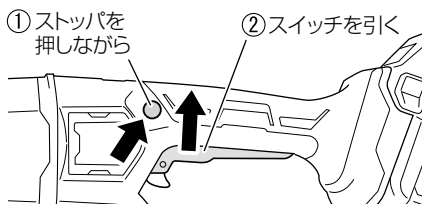
- 工具本体に蓄電池をさし込む前に、スイッチが切れていることを必ず確認してください。  
スイッチを入れたまま蓄電池をさし込むと、事故の原因となります。
- ストッパを押し込んだ状態で固定しないでください。  
けがの原因になります。

ストッパを押しながら、スイッチを引くと入り、はなすと切れます。

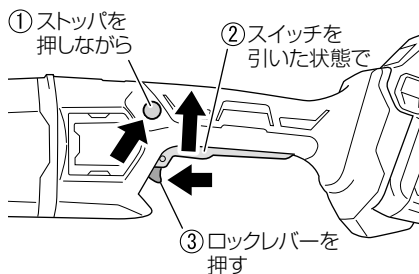
ストッパを押しながらスイッチをいっばいに引いた状態で、ロックレバーを押すと、スイッチをはなしても動き続ける連続運転になります。

切るときは、もう一度スイッチを引き、ロックレバーがはずれてから指をはなします。

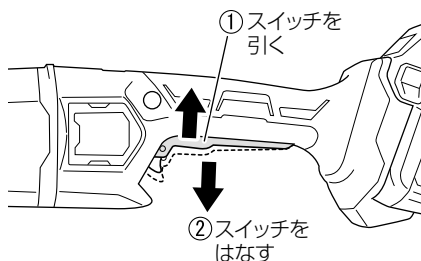
#### スイッチを入れる



#### 連続運転



#### スイッチを切る



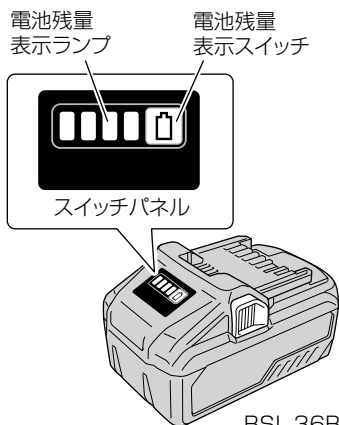
## ● 電池残量表示について

電池残量表示スイッチを押すとランプが点灯して、電池残量を確認することができます。

電池残量表示スイッチを押してから、約3秒後にランプは消灯します。

電池残量表示は、使用環境、電池特性等で多少異なりますので目安として見てください。

また、残量表示機能のある製品側、および充電器側の残量表示と異なる場合があります。



ランプの点灯状態		電池残量
	点灯	75% 以上
		50% ~ 75% 未満
		25% ~ 50% 未満
		25% 未満
	点滅	0%
		高温のため出力停止 <sup>※1</sup>
		故障のため出力停止 <sup>※2</sup>

※1: 蓄電池を工具本体より取りはずし、十分に冷ましてください。

※2: 蓄電池の故障と考えられますので、お買い求めの販売店にご相談ください。

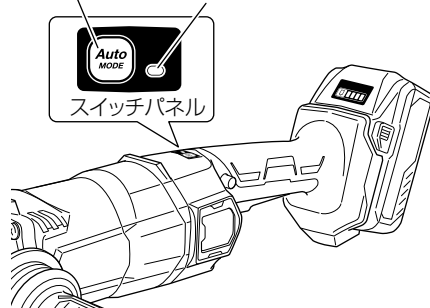
## ●モード切替機能とモード表示ランプについて

蓄電池を工具本体に取付け、一度スイッチを入れた後、モード切替スイッチを押すことで、オートモードと全速モードを交互に切り替えることができます。

オートモード時は、モード表示ランプが点灯します。

オートモード	<p>モーターの無負荷時の回転数を低くすることで、騒音をおさえることができます。</p> <p>作業中に負荷が大きくなると、回転数を自動的に引き上げます。また、負荷が小さくなると、自動的に回転数を下げます。</p>
全速モード	<p>常に一定の回転数を維持するように制御します。</p>

モード切替スイッチ    モード表示ランプ



用途に応じたモード設定をしてください。

モード	回転数 (min <sup>-1</sup> ) {回 / 分}	作業の目安
オート	3,200	軽作業、作業待機状態
	5,300	研削、切断作業
全速	5,300	全作業

本製品には保護機能が付いています。

下記の保護作動が働いたときに、モード表示ランプが点滅します。

### 【過負荷保護機能】

過負荷になったため、作動を停止しています。

過負荷の原因を取り除いてください。再度使用できます。

### 【温度保護機能】

機体が高温状態になったため、作動を停止しています。

風通しの良い日かげなどで十分冷ましてください。

機体の温度が下がれば使用できます。

### 【キックバック軽減システム】

先端工具の挟み込み等により、モーターの回転速度が急速に低下したため、作動を停止しています。

回転速度低下の原因を取り除いてください。再度使用できます。

# トイシの取付け・取りはずし(別売部品)

トイシは次の手順で取付け・取りはずしをしてください。

## ⚠警告

トイシの取付け、取りはずしの際は、必ずスイッチを切り、蓄電池を工具本体から抜いてください。

誤ってスイッチを入れると、けがの原因になります。

## 取付け

### 1 ホイルワッシャN・トイシを取付ける

- スピンドルを上に向け、ホイルワッシャNの凹部と、台座の凸部形状を合わせて取付けます。
- ホイルワッシャNの上にトイシの突出部を当てます。

**注** ホイルワッシャには、別売部品のホイルワッシャSも使用できます。

ホイルワッシャSを取付ける向きは、P.15「別売部品」を参照してください。

### 2 ホイルナットを取付ける

トイシの上からホイルナットの凸部をトイシの穴に合わせ、スピンドルに取付けます。

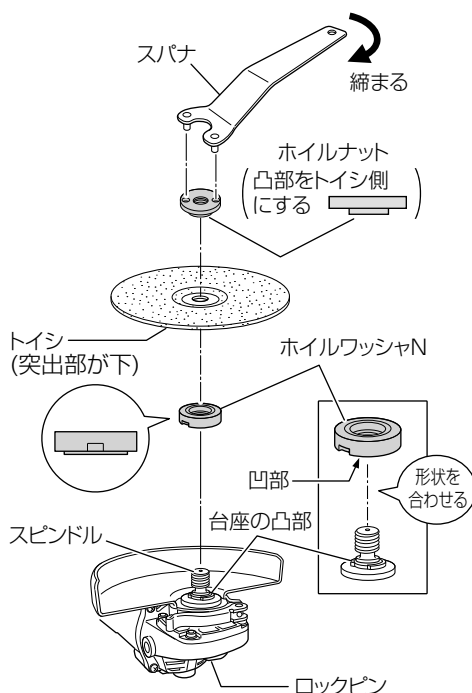
### 3 ホイルナットを締付ける

- ロックピンを押してスピンドルを固定し、スパナでホイルナットを十分に締付けます。
- ロックピンから手をはなすと、元の位置に戻り、スピンドルの固定が解除されます。

**注** ロックピンを押してはなしたときに、確実に戻ることを確認してください。

## ⚠注意

- ホイルナットは、必ず標準付属のスパナを使って十分に締付けてください。
- 標準付属のホイルワッシャNと別売部品のホイルワッシャSは、弊社プレーキ付180mmディスクグラインダ専用部品です。他のホイルワッシャは使用しないでください。また、他の製品には使用しないでください。



## 取りはずし

トイシを取りはずす場合は、①～③の取付けと逆の手順を行います。



# 本製品の特性について

本製品では電子制御を行っており、下記のような特性があります。

特 性	内 容
ソフトスタート	起動時の回転数を制御することで、作業者への反動を低減します。
ブレーキ機能	スイッチを切るとブレーキが働き、モーターの回転を停止させます。
過負荷保護機能	作業中一定以上の負荷が加わると、モーターが停止します。
温度保護機能	機体の温度が一定以上になると、制御部の保護のため停止します。機体の温度が下がれば、再び使用できます。
再起動防止機能	スイッチを入れた状態で、蓄電池を工具本体にさし込んでも起動しません。 スイッチを一度切ることで、解除することができます。
モード切替機能	P.22「モード切替機能とモード表示ランプについて」を参照してください。
キックバック 軽減システム	P.26「キックバック軽減システムについて」を参照してください。

# キックバックについて

## キックバックとは

回転中のダイヤモンドカッターや切断トイシに、急激に大きな負荷がかかり、回転数が急速に低下したとき、反発によって材料もしくは機体が作業者側にはじき飛ばされる現象です。

## キックバックを発生させる原因

キックバックを発生させる原因としては

- ① 材料によるダイヤモンドカッターや切断トイシの挟み込み
- ② 曲線切りなど、機体をこじめる作業
- ③ 材料にダイヤモンドカッターや切断トイシの刃先を当てた状態での起動

他にも、劣化したダイヤモンドカッターや切断トイシの使用や硬い未乾燥材の切断、過度に深い切込み設定、過大な押し付けなど、複合的な原因があります。

## キックバックを避けるには

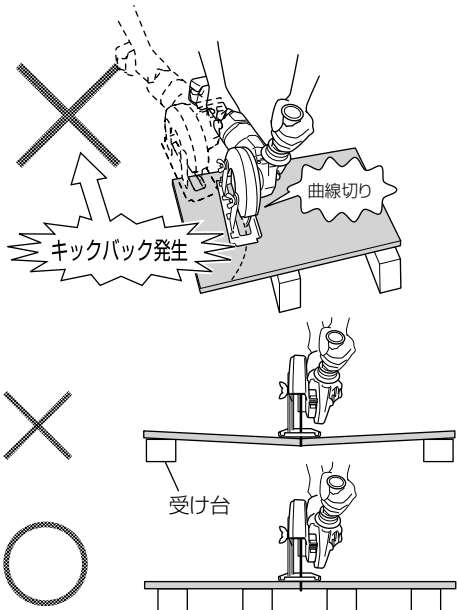
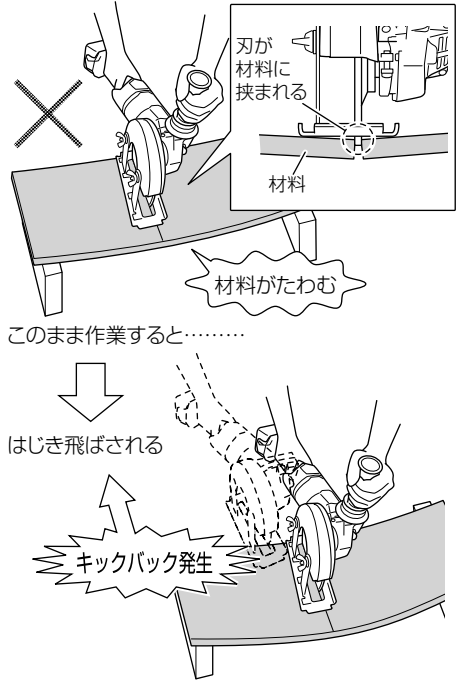
材料によるダイヤモンドカッターや切断トイシの挟み込みは、キックバックが発生する最大の原因です。

材料の設置方法を注意することで、ダイヤモンドカッターや切断トイシの挟み込みを少なくすることができます。

材料の下に受け台を適切に設置します。

切断する材料が長い場合、端部に近いところに受け台を設置すると、切断中に材料がたわんで、ダイヤモンドカッターや切断トイシを挟み込みます。

切断する部分に近い位置に受け台を設置するか、切り落とし側にも同じ高さの受け台を設置してください。



# キックバック軽減システムについて

本製品は、モーターの回転数の変化を監視し、ダイヤモンドカッターや切断トイシの挟み込み等により、モーターの回転速度が急速に低下したとき、瞬時にモーターを停止することで、キックバックの動きを軽減する「キックバック軽減システム」が搭載されています。

## キックバック軽減システムが作動したら…

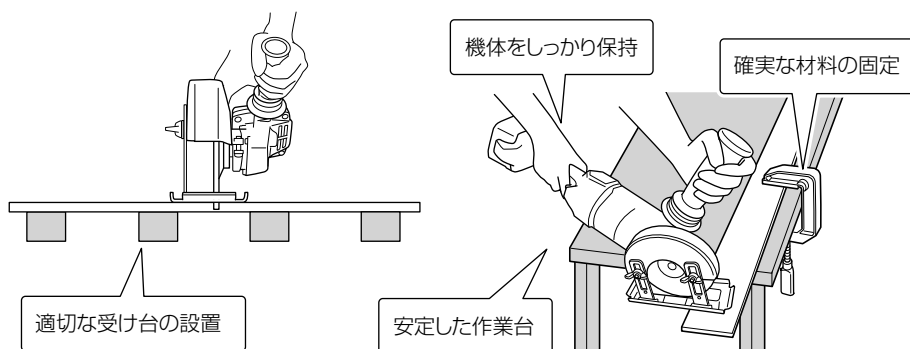
キックバック軽減システムが作動してモーターが停止したときは、

- ① 直ちに機体のスイッチを切る
- ② ダイヤモンドカッターや切断トイシにかかった負荷の原因を確認する
- ③ 過負荷となった原因を取り除く
- ④ 再度スイッチを入れる
- ⑤ 切断を再開する

## 注意していただきたいこと

「キックバック軽減システム」は、作業時の状況・条件等により作動しない、あるいは性能を十分に発揮できない場合があります。

作業時は、確実な材料の設置・固定および機体の保持を行ってください。



# 研削する

- 鉄、青銅、アルミ鋳物などのバリ取りおよび仕上げ、溶接、溶断部の研削、さび落とし
- 塗装面の下地みがき、さび落とし、塗装落とし

## 警告

- 手順①～④については、必ずスイッチを切り、蓄電池を工具本体から抜いて確認してください。  
スイッチが入っているのを知らずに電源に接続すると、けがの原因になります。
- 作業中は、必ず保護メガネを使用してください。
- 誤って落としたり、ぶつけたときは、トイシや機体などに破損や亀裂、変形がないことを良く点検してください。  
破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。

### 1

#### スイッチが切れていることを確認する



必ずスイッチがOFFであることを確認する

(P.20「スイッチについて」参照)

### 3

#### トイシを点検する

- トイシは正規のものか、またヒビや割れがないか調べてください。
- トイシは正規の状態に取付けられ、十分締付けられているか点検してください。  
(P.23「トイシの取付け・取りはずし(別売部品)」参照)

### 2

#### ホイルガードを点検する

- ホイルガードは、トイシが破壊した場合に使用者を保護する防護壁です。必ず取付けてください。
- ホイルガードは工具を使わずレバーの開閉でホイルガードの向きを任意に変更・固定ができます。作業に適した角度にセットして、ご使用ください。  
(P.18「ツールレスホイルガードの取付け」参照)

### 4

#### ロックピンを点検する

ロックピンを押してはなしたときに、確実に元の位置に戻ることを確認してください。

- 注** モーターの磁力により、ロックピンが戻らない場合があります。その場合は、スピンドルを左右に数回動かして戻ったことを確認してください。

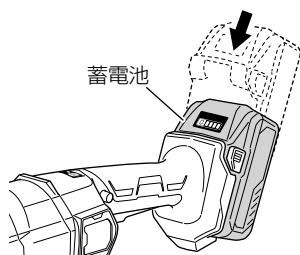
## ⚠️ 注意

- 蓄電池は確実に取付けてください。  
確実にないと、蓄電池が抜け落ちたりして、けがの原因になります。
- スイッチを入れるときは、機体をしっかりと保持してください。  
起動時の反動で、思わぬけがををする恐れがあります。
- スイッチを入れるときは、トイシが被削材などに接触していないことを確認してください。  
接触していることを知らずにスイッチを入れると、けがの原因になります。
- 新しいトイシを取付け、はじめてスイッチを入れるときは、トイシの露出部から必ず一時身体を避けてください。

**注** モーターが回転中は、ロックピンを押さないでください。またロックピンを押したままでスイッチを入れないでください。

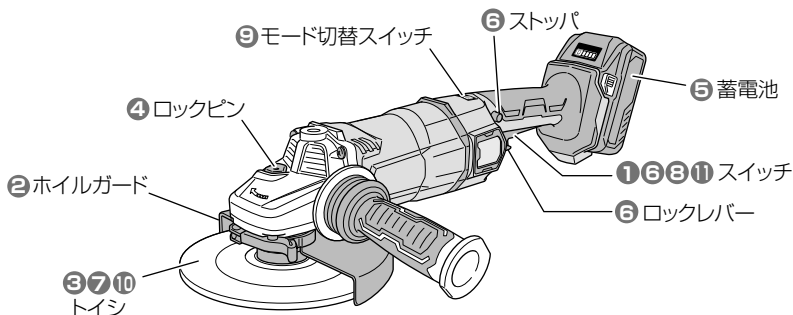
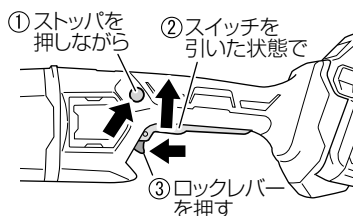
## 5 蓄電池を取付ける

下図の向きで、「カチッ」と音がするまで、しっかりと押し込んでください。  
(P.19「蓄電池の取りはずし・取付け」参照)



## 6 スイッチを入れる

スイッチは①ストッパを押ししながら、②スイッチを引くと入ります。スイッチをいっぱい引いた状態で③ロックレバーを押すと、スイッチをはなしても動き続ける連続運転になります。  
(P.20「スイッチについて」参照)



# 7

## 試運転を行う

- 異常音、異常振動がしたときは、直ちにスイッチを切ってトイシの取付けやヒビ、割れを点検してください。
- 作業前には人のいない方向にトイシを向け、必ず試運転を行って異常がないことを確認してください。

試運転時間は

トイシ交換のとき …………… 3 分間以上  
その日の作業始めのとき …… 1 分間以上

### ⚠ 注意

ブレーキが働くときの反発力に注意してください。

機体を落としたりし、けがの原因になります。

# 8

## ブレーキがかかることを確かめる

スイッチを切ると同時に、ブレーキがかかる構造になっています。ご使用前に、ブレーキがかかることを確認してください。

- 注** ブレーキが正常に作動しない場合は、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

# 9

## 回転数を調整する

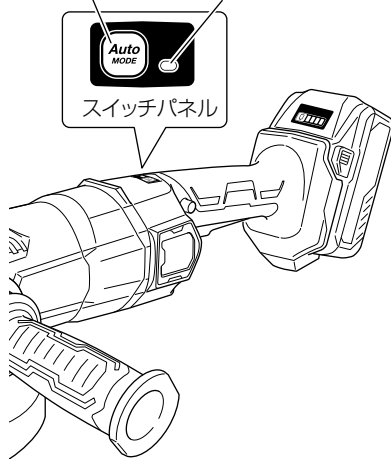
モード切替スイッチを押して、作業に応じたモードに切り替えます。

(P.22「モード切替機能とモード表示ランプについて」参照)

モード	回転数
オート	3,200 min <sup>-1</sup> {回/分} または 5,300 min <sup>-1</sup> {回/分}
全速	5,300 min <sup>-1</sup> {回/分}

- 注**
- モード切替は蓄電池を工具本体に取付け、一度スイッチを入れた後でないと切り替えできません。
  - スwitchの入/切、蓄電池の抜き/さしをしても、設定したモードは維持されます。

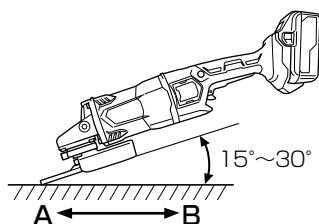
モード切替スイッチ      モード表示ランプ



## 10

## 材料にトイシをあてる

- 新品のトイシは、前 (Aの方向) へ押しめすとトイシの角が食い込むことがありますから、後ろ (Bの方向) へ引いてご使用ください。
- トイシの全面を材料にあてないで、図のように機体を  $15^{\circ} \sim 30^{\circ}$  傾けて、トイシの外周部で研削してください。
- 角が適度に摩耗しましたら、どちらへ進めても問題ありません。



## 11

## 作業を終了する

使用後はスイッチを切って、トイシの回転が止まってから機体を置いてください。  
 回転が止まらぬうちに切粉やごみの多い場所に置きますと、切粉やごみを吸い込むことがあります。  
 機体の寿命低下、事故の原因となりますのでご注意ください。

- 注** • その日の作業終了時、人のいない方向にトイシを向け、10～15秒間無負荷運転をしてください。  
 モーター内部に入り込んだ粉じんの排出に効果があります。
- 同時にエアガンなどを用いて空気を吹き込むと、より効果的です。  
 (P.42「モーターの取扱いについて」参照)

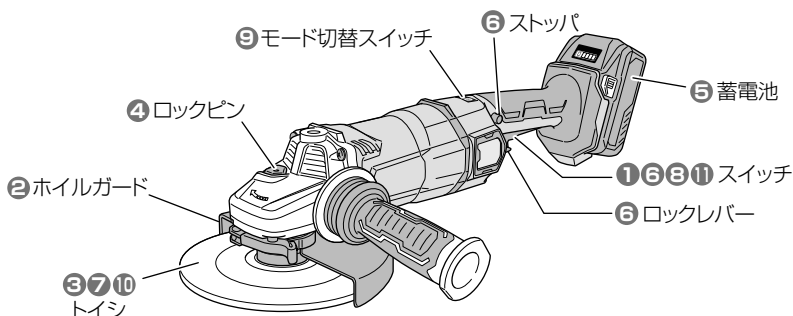
- 注** • トイシは材料に強く押し付けしないでください。

強く押し付けると、仕上げ面がきたなくなります。また過負荷になってモーターが故障する原因になります。

- 連続運転等により、機体の温度が上がり、モーターが停止する場合があります。

これは制御部の保護機能によるもので、故障ではありません。

このときは、機体をしばらく休ませてください。再びご使用になれます。



# 別売部品の取付け方

## ⚠ 警告

別売部品を使用する際も、以下の内容を守ってください。

- 万一の事故を防止するため、取付け、取りはずしの際は、スイッチを切り、蓄電池を工具本体から抜いてください。
- 必ずホイルガードを取付け、保護メガネを使用してください。
- 使用前に、ヒビ割れ、欠け、曲がりがないことを点検してください。
- 水や研削液などをかけて使用しないでください。
- キックバックが発生することがあるので、機体を確実に保持してください。

## ⚠ 注意

- トイシと同様に試運転を行って、異常がないことを確認してください。
  - 別売部品のホイルワッシャ【ダイヤ用】を、ホイルナットの代わりに使用しないでください。
  - ワッシャナット、およびホイルナットは、必ず標準付属のスパナを使って十分に締付けてください。
  - 標準付属のホイルワッシャNと別売部品のホイルワッシャSは、弊社ブレーキ付180 mm ディスクグラインダ専用部品です。他のホイルワッシャは使用しないでください。
- また、他の製品には使用しないでください。



## ●サンディングディスクの取付け

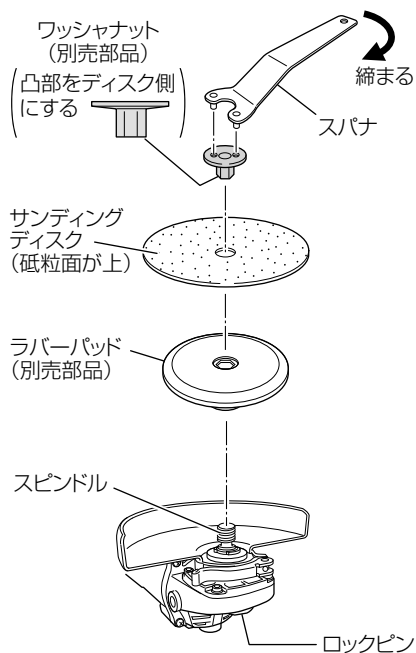
- サンディングディスクを使用するときは、別売部品のワッシャナット、ラバーパッドを一緒にお買い求めください。

**注** ホイルワッシャ、ホイルナットは使用しません。

**1** スピンドルにラバーパッド、サンディングディスクの順に取付けます。

**2** サンディングディスクの上から、ワッシャナットの凸部をサンディングディスクの穴に合わせ、スピンドルに取付けます。

**3** ロックピンを押してスピンドルを固定し、スパナでワッシャナットを十分に締付けます。



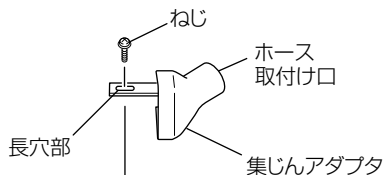
## ● ホイルガードベースセット【切断用】の取付け

- 切断トイシやダイヤモンドカッターを使用する際、ホイルガイドベースセット【切断用】を取付けて使用すると、切込み深さを一定に保つことができます。

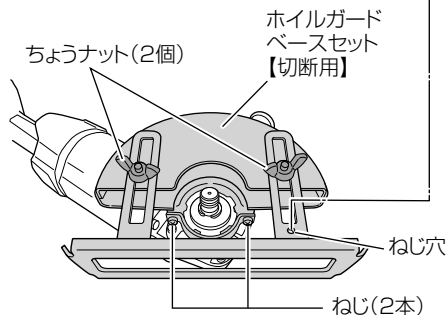
**注** ちょうナットやねじ類は、しっかりと締付けてください。

締付けが不十分な場合、作業中にねじがゆるんでホイルガイドベースが動き、けがの原因になります。

**1** 標準付属のツールレスホイルガードを取りはずし、ホイルガードベースセット【切断用】を右図のように取付けます。



**2** ホイルガードベースセット【切断用】の角度を作業に合った位置にセットし、ホイルガードベースセット【切断用】のねじ(2本)を十分に締付けて固定します。

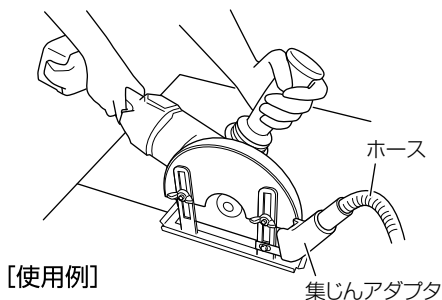


**3** 切込み深さの調整はちょうナット(2個)をゆるめて行います。

### 集じんアダプタを取付ける場合

**4** ホイルガードベースセット【切断用】のねじ穴に集じんアダプタの長穴部を合わせ、ねじで締付け固定してください。(右上図参照)

**5** 集じんアダプタのホース取付け口に、電動工具用集じん機(別売)のホースを取付けて使用してください。



**注** 鋼材を切断する場合は、集じんアダプタや集じん機を使用しないでください。研削火花で集じんアダプタや集じん機が損傷します。

## ●切断トイシの取付け

- 切断トイシは金属用と非金属用の2種類あります。用途に応じたトイシを選択してください。
- 鉄などの切断には、金属用切断トイシを使用してください。
- 送り速さを加減しながら、無理な力をかけないようにして使用してください。

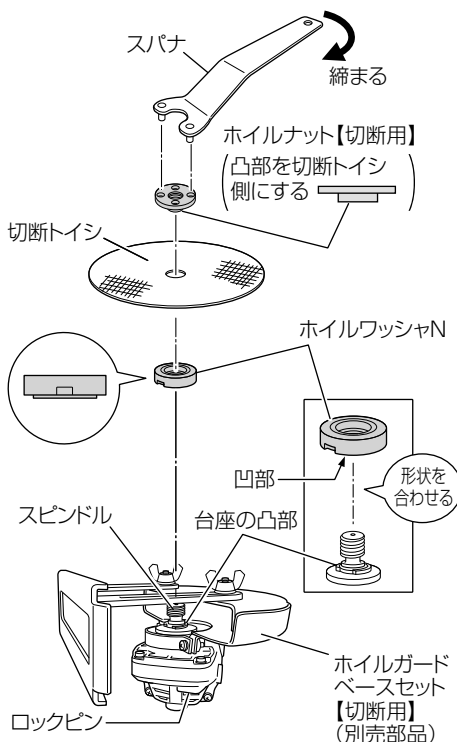
- 注**
- 切断トイシを使用するときは、必ず別売部品のホイルガードベースセット【切断用】、ホイルワッシャN、ホイルナット【切断用】を取付けて使用してください。
  - ホイルガードベースセット【切断用】は、切断作業時に発生する研削火花で高温になります。手など触れないように注意してください。

**1** 標準付属のツールレスホイルガードを取りはずし、ホイルガードベースセット【切断用】を取付けます。

**2** スピンドルにホイルワッシャN、切断トイシの順に取付けます。

**3** 切断トイシの上からホイルナット【切断用】の凸部を切断トイシの穴に合わせて、スピンドルに取付けます。

**4** ロックピンを押してスピンドルを固定し、スパナでホイルナット【切断用】を十分に締付けます。



## ●ダイヤモンドカッターの取付け

- ダイヤモンドカッターは乾式用を使用してください。
- 別売部品のホイルガードベースセット【切断用】を取付けて使用すると、切込み深さを一定にすることができます。
- モーター故障の原因になるので、1回の切込み深さは30mm以下にしてください。また、送り速さを加減しながら、無理な力をかけないようにして使用してください。

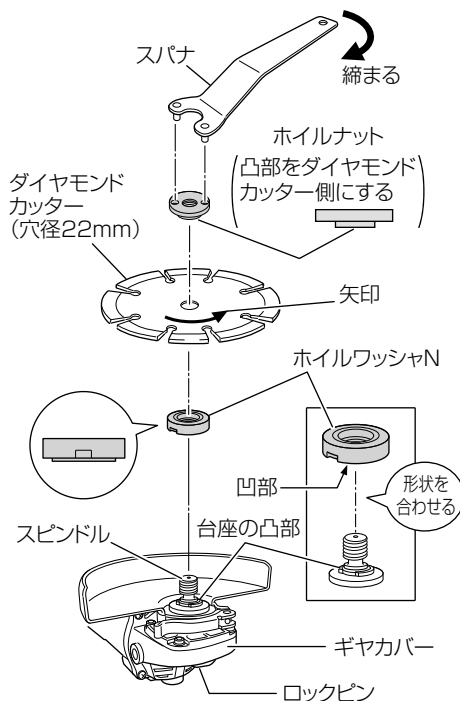
- 注**
- 穴形22mmのダイヤモンドカッターは標準付属のホイルワッシャN、ホイルナットが使用できます。
  - 穴形20mm、または25.4mmのダイヤモンドカッターを取付けるときは、別売部品のホイルナット【ダイヤ用】をお買い求めください。
  - ホイルワッシャには、別売部品のホイルワッシャSも使用できます。
  - 別売部品のホイルワッシャS、ホイルナット【ダイヤ用】を取付ける向きは、P.16「別売部品」を参照してください。

- 1** スピンドルに、ホイルワッシャN、ダイヤモンドカッターの順に取付けます。

- 注** ギヤカバーについている矢印と、ダイヤモンドカッターについている矢印の方向を合わせてください。

- 2** ダイヤモンドカッターの上から、ホイルナットの凸部をダイヤモンドカッター側にして、スピンドルに取付けます。

- 3** ロックピンを押してスピンドルを固定し、スパナでホイルナットを十分に締付けます。



## ●各種先端工具の取付け

### ⚠注意

ワイヤブラシを使用する際は、必ず専用保護カバーを装着し、保護メガネを着用してください。

万一、ワイヤが飛び散ったとき、けがの原因になります。

先端工具	取付け方法
レジノイドフレキシブルトイシ レジノイドトイシ 多羽根ディスク（穴式） ベベルワイヤブラシ（穴式）	標準付属のホイルワッシャN <sup>※</sup> 、ホイルナットを使用し、取付けます。 (P.23 参照)
ベベルワイヤブラシ（ねじ式）	直接スピンドルにねじ込んでください。 標準付属のホイルワッシャN <sup>※</sup> 、ホイルナットは使用しません。

※ ホイルワッシャには、別売部品のホイルワッシャSも使用できます。

# 蓄電池を充電する

ご使用の前、新品時、長期間で使用にならなかったとき、残量が残りに少なくなったときは、次のように充電してください。

## ⚠ 警告

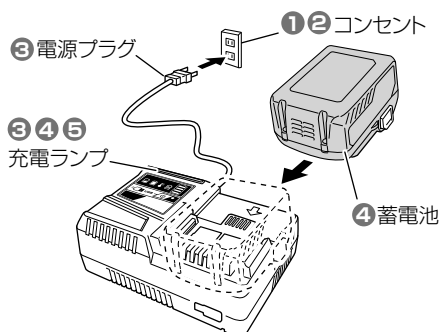
手順 ①、②については、充電器の電源プラグをコンセントにさし込む前に確認してください。

## 充電時間

BSL 36A 18：約 25 分

BSL 36B 18：約 40 分

**注** 充電時間は使用環境や蓄電池の状態により長くなることがあります。



## 1 電源を確認する

この充電器は交流 100 V 用です。200 V 電源や直流電源、昇圧器などのトランス類を使用しないでください。

## 2 コンセントを確認する

コンセントがガタついたり、電源プラグが抜け落ちてしまうときは、接続しないでください。そのまま使用すると危険です。

## 3 電源プラグをコンセントにさし込む

充電ランプが赤の点滅を繰り返します。(P.38「充電ランプの表示について」参照)

## 4 蓄電池を充電器にさし込む

- 蓄電池をしっかりと突き当たるまでさし込んでください。
- 充電を開始すると、充電ランプが青に連続点灯して、充電開始をお知らせします。
- 充電中は、電池容量ランプで充電容量を表示します。

## 5 充電が終わったら

- 充電が完了すると、充電ランプが緑に連続点灯し、ブザーが「ピー」と 6 秒鳴ってお知らせします。
- 電源プラグをコンセントから抜き、充電器から蓄電池を抜き取ってください。

## ●充電ランプの表示について

充電器には、充電状態を表示する「充電ランプ」がついています。  
各ランプの表示内容は以下のようになっています。

ランプ	ランプの表示			表示内容
充電ランプ (赤/青/緑/紫)	充電前	赤点滅	0.5秒点灯/0.5秒消灯 	電源にさし込んだ状態
	充電中	青点灯	連続点灯 	
	充電完了	緑点灯	連続点灯  (連続ブザー音:約6秒)	
	高温待機	赤点滅	0.3秒点灯/0.3秒消灯 	蓄電池の温度が高くて充電できない (温度が下がると自動的に充電を開始)
	充電不可	紫の速い点滅	0.1秒点灯/0.1秒消灯  (連続ブザー音:約2秒)	充電器または蓄電池の端子部に異物が入っている

**注** 一度充電が完了した後、次の充電まで5分程度休ませてください。  
同じ充電器を連続して使用すると、充電器が発熱し、故障の原因になります。

## ●電池容量ランプについて

電池容量ランプによって、充電中の電池の充電容量を確認することができます。

ランプの表示と電池容量は以下のようになっています。



ランプの表示					
電池容量	25% 未満	50% 未満	75% 未満	75% 以上	充電完了

電池残量表示は、周囲温度、電池特性等で多少異なりますので、目安として見てください。

**注** 充電完了後、しばらくすると電池容量ランプは消灯します。

### ⚠警告

- 使用前に、接続する USB ケーブルが損傷していないことを確認してください。損傷した USB ケーブルを使用しますと、発煙・発火の原因になります。
- 使用しないときは、USB 端子にゴムカバーを被せてください。USB 端子にほこり等が付着すると、発煙・発火の原因になります。

充電器 UC18YDL には、電動工具用リチウムイオン電池を充電する以外に、一般の USB 機器を充電できる USB 端子を装備しています。

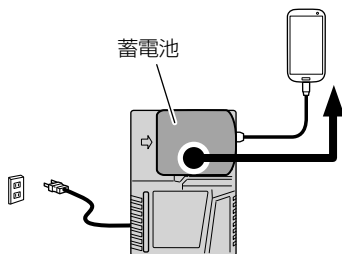
弊社のリチウムイオン電池から携帯電話などの USB 機器を充電することができます。

- 注**
- USB 機器と蓄電池の充電を同時に行うと、充電時間が長くなります。
  - USB 機器の充電が途中一時停止する場合があります。(詳細は、P.45「故障診断」参照)。
  - USB 機器を充電しないときは、USB 電源スイッチを OFF にして、USB 機器を充電器から取りはずしてください。USB 機器の蓄電池寿命(充電回数)を縮めたり、思わぬ事故の原因になります。
  - USB 機器の種類によっては、充電できない場合があります。

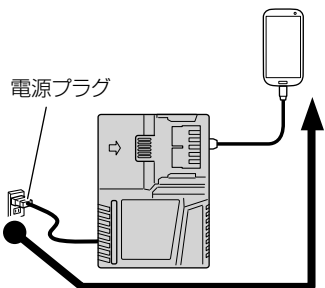
## 1 充電方法を選択する

充電方法に応じて、蓄電池を充電器にさし込むか、電源プラグをコンセントにさし込みます。

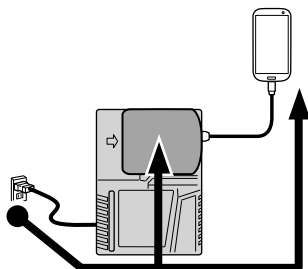
### 蓄電池から USB 機器を充電



### 100V コンセントから USB 機器を充電



### 100V コンセントから蓄電池と USB 機器を同時に充電





## 2 USB 電源スイッチを ON にする

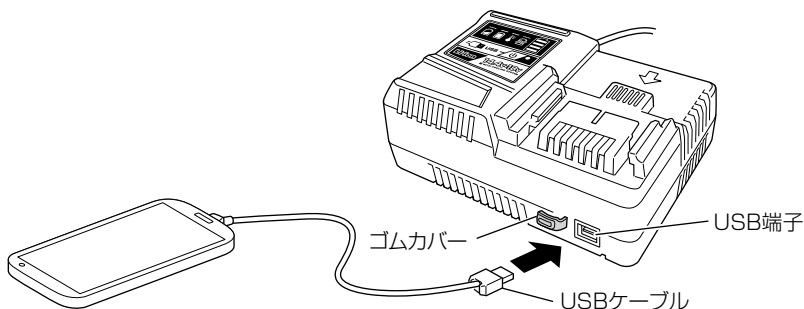
USB 電源スイッチを ON にすると、USB 電源ランプが点灯します。



USB電源スイッチ  
USB電源ランプ

## 3 USB ケーブルを接続する

ゴムカバーをめくり、ご使用の製品に合った市販の USB ケーブルを USB 端子に奥までしっかりとさし込みます。



- 電源プラグをコンセントにさし込んでいない場合、蓄電池の容量がなくなると、USB 電源ランプが消灯して出力が停止します。
- USB 電源ランプが消灯したときは、電源プラグをコンセントにさし込むか、蓄電池を交換してください。

## 4 充電が終わったら

- USB 機器の充電が終わっても、USB 電源ランプは消えません。充電状態は USB 機器で確認してください。
- USB 電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 充電器から蓄電池を抜き取り、USB 端子にゴムカバーを被せてください。

# 保守・点検

## ⚠ 警告

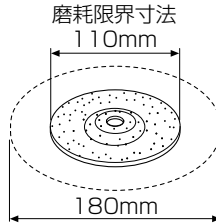
点検・お手入れの際は、必ずスイッチを切り、蓄電池を工具体体から抜いてください。  
また充電器は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

### ● 機体の点検

各部部品の取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。  
ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります  
異常がある場合は、お買い求めの販売店に相談してください。

### ● トイシの交換時期

トイシの外径が下記の磨耗限界寸法になったら、新品と交換してください。



### ● 清掃する

機体が汚れたときは、石けん水に浸した布を良く絞ってからふいてください。  
ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油類はプラスチックを溶かす作用があるので使用しないください。

### ● 端子部（工具体体、蓄電池）の点検

端子部に切りくず、ほこりがたまっていないか点検してください。  
作業前、作業後のほかに作業中でも時々点検してください。

## ⚠ 注意

端子部に切りくず、ほこりがたまっている場合は、取り除いてください。  
そのまま使用すると、故障の原因になります。

## ● モーターの取扱いについて

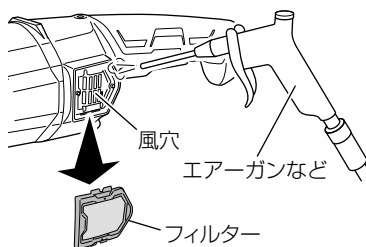
### ⚠ 警告

エアガンなどを用いてフィルターの風穴から空気を吹き込む際には、保護メガネと防じんマスクを使用してください。

排出されたごみやほこりを吸い込んだり、目に入る可能性があります。

モーター（内蔵）(P.11「各部の名称」参照)に、油や水が浸入しないよう十分に注意してください。

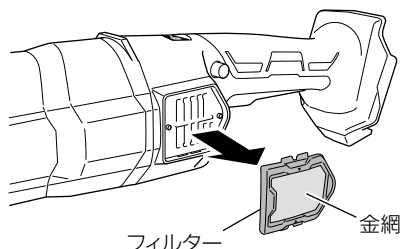
**注** 50時間くらい使用しましたら、モーターを無負荷運転させながら、エアガンなどを用いて湿気のない空気を風穴から吹き込んでください。ごみやほこりの排出に効果があります。モーター内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。



## ● フィルターの清掃

使用後はフィルターをはずし、金網に付着したごみやほこりを取り除いてください。

**注** ● フィルターを取りはずして無負荷運転し、湿気のない空気を入れることで、内部のごみやほこりを排出してください。モーター内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。  
● 清掃後、フィルターを確実に取付けてください。



## ● 機体や付属品の保管

下記のような場所は避け、温度が50℃未満で乾燥した安全な場所に保管してください。

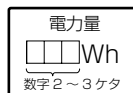
**注** ● お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所  
● 軒先など雨が降ったり、湿気のある場所  
● 温度が急変する場所、直射日光の当たる場所  
● 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所

## ● リチウムイオン電池の輸送について

### ⚠ 警告

輸送会社にリチウムイオン電池を含む荷物であること、および電力量を伝えて、輸送会社の指示に基づいた手続きを行ってください。

- 電力量が100 Whを超えるリチウムイオン電池の場合は、輸送貨物の分類上、危険物扱いとなり、特別な申請等が必要になります。
- 海外へ輸送する場合、国際法令および輸送先国の規制に従う必要があります。
- BSL36B18 は工具本体に取付けると100 Whを超え、危険物扱いとなります。

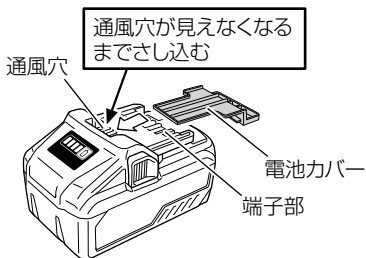


## ● リチウムイオン電池の保管について

### ⚠ 警告

リチウムイオン電池の端子部に導電性のある異物が入り込むと、短絡（ショート）して発熱、発煙、発火する恐れがありますので、保管するときは、以下の内容を必ず守ってください。

- 収納ケースに導電性のある切りくずや釘、針金や銅線などの線材を入れないでください。
- 短絡（ショート）するのを防ぐため、蓄電池は工具本体にさし込むか、電池カバーを取付けて保管してください。



- 注** リチウムイオン電池を保管するときは、満充電にして保管してください。蓄電池の残量が少ない状態で長期間（3か月以上）保管すると蓄電池が劣化し、使用時間が著しく短くなったり、充電できなくなる恐れがあります。使用時間が著しく低下した蓄電池でも、充電と使用を2～5回繰り返すと使用時間が回復する場合があります。
- 充電と使用を繰り返しても使用時間が極端に短い場合は、蓄電池の寿命がつかたとお考えいただき、新しい蓄電池をお買い求めください。

# 故障診断

「故障診断」で対応できない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。  
また、蓄電池が原因の場合もありますので、充電器と蓄電池を組でご持参ください。

## 1. 工具体

状 況	原 因	対 策
動かない	電池残量がない	蓄電池を充電してください。
	蓄電池が確実に取付いていない	カチッとなるまで蓄電池を押し込んでください。
	ロックピンに異物がはさまり、押されたままの状態になっている	ロックピンにはさまっている異物を取り除いてください。
	スイッチが入った状態で、蓄電池をさし込んだ	スイッチを一度切って、再度スイッチを入れてください。
突然止まった	過負荷になった	大きな負荷となった原因を取り除いてください。
	キックバック軽減システムが作動した	
	蓄電池、または本体が過熱状態になった	蓄電池および本体を十分冷ましてください。
異音がする トイシが振れる	ホイルナットがゆるんでいる	ホイルナットを十分に締め直してください。
	ホイルナット、ホイルワッシャ、トイシなどの取付け方向がまちがっている	取付け方向を確認して、正しい方向に取付けてください。
	ホイルナット、ホイルワッシャ、トイシなどの間に異物がはさまっている	異物を取り除いてください。
ブレーキが正常に作動しない	本体の異常	直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
蓄電池が取付かない	指定以外の蓄電池を取付けようとした	蓄電池はマルチポルトタイプを使用してください。

## 2. 充電器

状 況	原 因	対 策
充電ランプが紫の速い点滅を繰り返し、蓄電池の充電を開始しない	蓄電池が突き当たるまで、さし込まれていない	しっかりとさし込んでください。
	蓄電池の取付部または蓄電池の端子部に異物が入っている	異物を取り除いてください。
充電ランプが赤く点滅して、蓄電池の充電を開始しない	蓄電池が突き当たるまで、さし込まれていない	しっかりとさし込んでください。
	蓄電池が高温になっている	そのままの状態でも、蓄電池の温度が下がると自動的に充電を開始しますが、蓄電池の寿命を縮める原因になります。蓄電池を風通しの良い日かげなどで冷ましてから、充電することをおすすめします。
満充電をしても、蓄電池の使用時間が短い	蓄電池の寿命が尽きた	蓄電池を新品と交換してください。
蓄電池の充電時間が長い	蓄電池や充電器の温度、周囲気温などが極端に低い	室内など暖かい場所で充電してください。
	充電器の風窓がふさがった状態になっているため、充電器内部が高温になっている	風窓がふさがっていないようにしてください。
	冷却ファンが回っていない	販売店に修理を依頼してください。
USB 電源ランプが消灯して、USB 機器の充電が停止した	蓄電池の電池残量が少なくなった	電池残量がある、蓄電池と交換してください。
		充電器の電源プラグを 100 V コンセントにさし込んでください。
USB 機器の充電が完了しても、USB 電源ランプが消灯しない	USB 電源ランプは、USB 機器の充電ができる状態にあることを緑色の点灯で表示している	故障ではありません。
USB 機器の充電状態や充電完了がわからない	USB 電源ランプは、充電が完了しても、USB 電源ランプが消灯しない	充電中の USB 機器で確認してください。
USB 機器の充電が途中で一時停止した	蓄電池を供給電源にして USB 機器を充電中に、充電器の電源プラグを 100 V コンセントにさし込んだ	故障ではありません。 充電器が供給元電源を判別するため、約 5 秒間 USB 機器の充電を停止します。
	100 V コンセントを供給電源にして USB 機器を充電中に、充電器に蓄電池をにさし込んだ	
蓄電池と USB 機器を同時に充電中、USB 機器の充電が途中で一時停止した	蓄電池が満充電となった	故障ではありません。 蓄電池が正常に充電完了したことをチェックしているため、約 5 秒間 USB 機器の充電を停止します。
蓄電池と USB 機器を同時に充電する際、USB 機器の充電が開始しない	蓄電池の電池残量が極端に少ない	故障ではありません。 蓄電池の電池残量があるレベルに達すると、自動的に USB 機器の充電を開始します。

# ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。  
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へお問い合わせください。

## お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておくと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

## 全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日を除く 9:00～17:00

●フリーダイヤル

 **0120-20-8822**

※携帯電話からはご利用になれません。  
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待たせする場合があります。  
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 786-5122	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 6738-0872	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、  
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。

<http://www.hikoki-powertools.jp/relation/sales.html>

WEBに  
アクセス

バーコードリーダー機能付きの  
携帯端末より読み取ることで、  
最新の全国営業拠点をご確認  
いただけます。



# 工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)  
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <http://www.hikoki-powertools.jp>